

令和7年度 学校自己評価計画書

石川県立七尾特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の判断基準	判定基準	備考
1 授業実践力の向上 (教科指導の充実)	① 国語科「聞くこと・話すこと」領域の資質・能力向上を目指した授業改善に取り組みながら、自分の担当している他の授業にも成果をいかし授業改善に取り組む。	研究研修課	国語科で扱う「言葉」は児童生徒の学習活動を支える重要な役割を果たし、どの教科・領域を学ぶ上でも大きく関わるものであることから、他の教科においても、授業改善に取り組む必要がある。	【努力指標】 児童生徒の「聞くこと・話すこと」領域の資質・能力が向上した。	部研究や研究授業と授業整理会などを参考にした授業改善により、児童生徒の「聞くこと・話すこと」領域の資質・能力が向上したと回答した教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価 (7、12月)
2 地域社会との連携	① 地域に開かれた学校教育の展開を目指し、児童生徒が地域の公共施設や人材等を活用し学習する機会を計画的に設定する。	各部	地域社会での学習活動の取組では、各部ごとに計画し不定期に実施しているが、学校全体とした計画はない。また地域と連携した取組はほとんどなく、現状を確認しながら構築していく必要がある。	【成果指標】 地域の公共施設や人材を活用した授業を検討し、実施する。	地域の公共施設や人材を活用した授業を検討し、実施した回数が全校で A 45回以上である。 B 30回以上である。 C 15回以上である。 D 15回未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価 (7、12月)

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の判断基準	判定基準	備考
3 安心・安全な 学校づくり	① 各部署で実施する防災教育において、児童生徒が理解し取り組める授業を行う。	学校安全課	防災教育は各部署で児童生徒の実態に応じて実施しているが、個々の理解度までは十分に把握していない現状がある。実際の場面でも活用できる授業を行い、児童生徒の理解度を確認し保護者と連携して取り組む必要がある。	【成果指標】 危機対応が必要な様々な場面で、児童生徒が自ら取るべき行動について理解し、行動できる。	防災教育の授業内容を理解し、「行動できる」と回答した児童生徒の割合、または教師の見本行動と同様の行動を行うことのできた児童生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	児童生徒、教員を対象としたアンケートによる評価 (7、12月)
	② 学校で実施する防災教育が、各家庭や地域で役立つものとなるように保護者に情報発信し改善を図る。			【満足度指標】 防災教育の取組について保護者に情報発信し、その内容は満足できるものである。	防災教育の授業内容について、その内容が「満足できるものである」回答した保護者が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	保護者を対象としたアンケートによる評価 (7、12月)